

# 奥能登版デジタルライフライン①

能登半島地震では、国や民間事業者の協力のもと、デジタル技術を活用した被災地や被災者を支援する取組が行われた

地域デジタル推進課  
076(225)1320

## <主な取組実績>

### 物資支援の円滑化

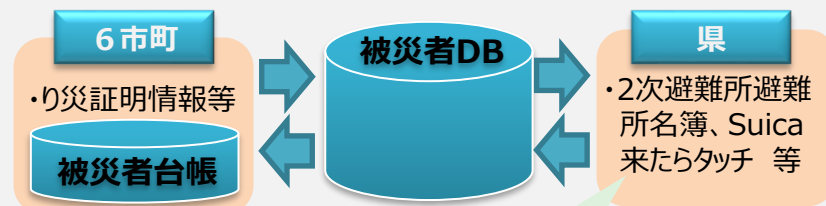
- システムを用いた情報連携・物資管理
- ・物資調達・輸送調整等支援システムを活用し、情報連携、物資を管理



### 被災者・避難所の把握

#### ○被災者の把握

- ・被災者データベースを構築し、関係者間で被災者情報を集約・共有



- ・Suicaを活用し、被災者情報の把握  
→無料入浴支援等で活用



#### ○避難所の把握

- ・自衛隊やDMAT等が調査した情報を集約



### 孤立集落へのドローン配送

- 国内初のドローンによる災害時の物資輸送
- ・1/8～1/14で計11回（輪島市・能登町）の輸送



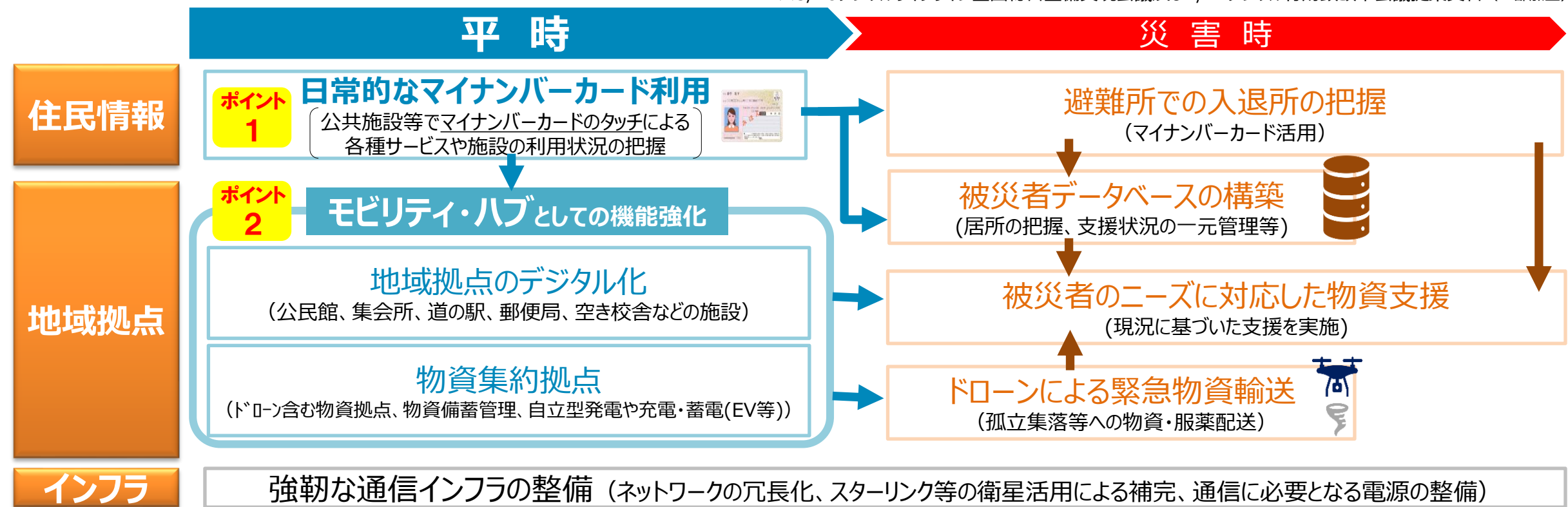
➤ デジタル技術を活用する中で得た、最大の教訓は 平時からのデジタル活用の重要性(フェーズフリー)

# 奥能登版デジタルライフライン②

平時の備えと災害時にはスムーズに機能するデジタルライフラインを構築し、創造的復興の実現に向け、災害に強い地域づくりを推進することが重要

## 国のデジタルライフライン全国総合整備計画(案)における 奥能登版デジタルライフライン

※3/28デジタルライフライン全国総合整備実現会議及び4/22デジタル行財政改革会議提案資料（一部加工）



➤ 創造的復興に向けて実効性を高めていくため、国と連携し、R7年度以降の着手に向けて、平時から災害時まで状況に関わらず活用可能(フェーズフリー)な「奥能登版デジタルライフライン」の構築を検討

# 乳幼児医療費助成拡大による子育て環境の充実

R5年度

・県は乳幼児医療費助成を拡大し、市町の財政負担を軽減（約2億円）

→通院の助成対象年齢を入院と同じ「就学前」まで拡大、所得制限を撤廃

・市町に対し、軽減される財源を活用し、新たな子育て支援策の検討を要請

市町の上乗せ分  
約1.2億円

これを受け、全ての市町において、様々な子育て支援策を実施（約3.2億円）  
(予算ベース)

## ①経済的負担の軽減（10市町）

経済的負担が軽くなり有難い

金沢市 子ども医療費の対象拡充  
(入院を18歳まで拡充・自己負担撤廃) など

野々市市 子ども医療費の自己負担撤廃

津幡町 子ども医療費の自己負担撤廃

加賀市 保険適用の不妊治療への助成など

宝達志水町 予防接種費の助成額の拡充など

珠洲市 第3子以降の保育料完全無償化

内灘町 多子世帯の保育料軽減対象の拡充など

穴水町 0～2歳児の保育料完全無償化など

羽咋市 学校給食費無償化の拡充  
(中学2～3年生→1年生にも拡大)

能登町 小・中学生の給食費の負担軽減



# 乳幼児医療費助成拡大による子育て環境の充実

## ②新たな住民サービスの実施（5市町）

- 七尾市 こども園におむつ等の無償配備
- 白山市 おむつクーポンの支給 など
- 志賀町 出産祝金15万円の給付
- 中能登町 中学入学時の祝金2万円の給付
- 能美市 3歳～小学生の市内観光施設等の利用料助成 など

保育園におむつを預ける  
必要がなくなり助かった



## ③子育てしやすい環境整備（4市町）

- 小松市 こども園の遊具等の整備 など
- 川北町 保育所の遊具等の整備 など
- 輪島市 不登校等の子どもの居場所の運営
- かほく市 特別支援教育支援員の追加配置



支援が必要な児童に  
寄り添った対応ができた

経済的負担のさらなる軽減や、工夫を凝らした新たな住民サービスの提供、  
地域の実情に応じた子育てしやすい環境整備につながった

### R6年度

### R5年度支援策の継続に加え、一部の市町で事業を拡大

- 羽咋市 学校給食無償化を小学生に拡大
- 宝達志水町 予防接種費の助成対象を高校生に拡大
- 川北町 リトミック教室の開催（音楽を通して様々な能力をのばす）

市町の継続・拡充事業  
約3.5億円  
(予算ベース)

市町は新たな支援策を実施し、県全体の子育て環境のさらなる充実





# IRいしかわ鉄道の県内全線開業後の利用状況



○3月16日～31日までの利用者数（推計） 48,500人/日

○全線開業(3月16日)に合わせて、運行本数を9本増便して利便性向上を図ったほか、以下の取組を実施

## 市町との連携

### 駅へのアクセス向上・駅周辺整備

#### 新駅「西松任駅」

- ・全線開業と同時に、新駅として開業。
- ・白山市が整備し、駐車場や駐輪場を設け、パーク&ライドを推進



## 隣県との連携

### 北陸3県共通フリーきっぷの発売

#### 「北陸3県2Dayパス」

利用期間：R6.3.16～R7.3.31  
(土日祝日の他、GW、夏休み、北陸DC期間など)

利用区間：越中宮崎～敦賀  
(富山県) (福井県)

有効期間：2日間

販売価格：2,800円

販売実績：2,410枚(3/31時点)



## 鉄道事業者との連携

### 新たな企画きっぷの造成

#### 「石川線・IR西金半額きっぷ」

IRと石川線を乗り継いだ金沢駅への移動が、通常運賃の半額となる切符

利用期間：R6.3.16～

利用区間：石川線各駅～西金沢～金沢

販売実績：94枚(3/31時点)



⇒ 経営計画におけるR6年度の予測値（48,373人/日）と同程度となった。

## ○今後も隣県・鉄道事業者・市町と連携し、利用促進策を展開

### 隣県との連携

#### 北陸3県周遊促進 「開業記念キャンペーン」

- 開業後1年を通じて展開
- ・観光列車の3県横断運行
  - ・3県並行在来線連携スタンプラリーの実施 など



あいの風とやま鉄道観光列車  
「一万三千尺物語」

【実施期間】R6年度

### 鉄道事業者との連携

#### 県内鉄道事業者連携 周遊イベントの開催

- 鉄道を乗り継いで謎を解く周遊イベントの実施
- 【参加予定事業者】  
IRいしかわ鉄道、JR西日本、北陸鉄道、のと鉄道
- 【実施期間】R6夏～秋

### 市町との連携

#### 「IRいしかわ鉄道マルシェ(仮称)」 の開催

- ・沿線7市町と連携して、駅前イベントを同日開催
  - ・回遊性を高めるスタンプラリーを合わせて実施
- 【実施期間】R6秋



人口減少などにより、鉄道事業を取り巻く環境が厳しくなると見込まれる中、引き続き、関係者一丸となり、IRいしかわ鉄道の安定的な経営と運行を目指す